

令和7年度 第2回学校運営協議会記録

1. 日 時 令和7年12月4日（木） 14：30～16：00

2. 場 所 本校会議室

3. 出 席 者 学校協議会委員（出席6名）

・牧野 浩二 ・戸塙 耕造 ・細越 浩嗣
・中谷 正彦 ・澤田 真男 ・寺村 幸代

4. 議 題 ①審議事項

なし

②報告・協議

- (1) 生徒在籍数及び追認指導について
- (2) 今年度の進路取り組みについて
- (3) 生徒状況について
- (4) 学校行事・部活動・生徒会活動について
- (5) PTA活動について
- (6) 広報活動について
- (7) 国際交流について
- (8) 地域連携活動について
- (9) その他

5. 協 議 概 要 以下、協議において出席委員から出された主な意見等です。

<日本の高等教育の在り方について>

- ・近年、AIの進化により社会の職業構造が大きく変化している。これまで人の手で行われていた業務の一部が自動化される一方で、現場での実践力や柔軟な対応力が求められる仕事が注目されている。
- ・こうした背景から、看護・医療系の進路は依然として重要であるものの、「安易に薦める」時代ではなくなってきている。生徒一人ひとりの適性や興味を丁寧に見極め、幅広い選択肢の中から最適な進路と共に考えることが、これから進路指導のポイントになるのではないか。
- ・本校の卒業生が、どの大学に進学し、どのような職業に就いているのかをデータとして整理・分析することで、より具体的で信頼性の高い情報を生徒に提供できるようになると考

える。こうした取り組みは、生徒の未来を支える大切な一歩になるのではないかと考える。

<「教職員による児童・生徒の撮影に関する指針」について>

- ・学校のタイムリーな情報発信が困難になると思われる。SNSと学校運営とを良い方向に持っていくために時代、社会の変化についていくことが重要であると考える。
- ・地域連携活動（高石市との連携事業・災害ボランティア活動等）としての情報発信・広報活動は、個人情報に配慮しながらも引き続きお願いしたい。

<クラブ活動の現状と変化について>

- ・吹奏楽部などが外部イベント等の多く参加していることを利用し、広報活動の一環として盛り上げていくことは学校として重要ではないか。
- ・入試制度は変わるが、依然として生徒が私立高校へと流れていくことが懸念される。本校の特徴であるボート部などのクラブ活動を用いて学校の特色を強調することが必要になると思われる。

<進路指導について>

- ・学校で行っている業者実力テストの成績は、一定の相関はあるものの、必ずしも社会での貢献度を示すものではない。そのため、公立高校はただ成績を上げることに執着せず、「将来の夢を持てる度」、「将来の幸せ度」等のこれまでとは異なる評価軸を設けることも大切になるかと考えられる。

<教務について>

- ・家庭学習時間の過減から、学習意欲の向上と自ら学ぶ習慣を確立させるために、カリキュラム・指導法・教材の工夫など、生徒に勉強を楽しいと思わせるしきけづくりを何か考えて欲しい。

<教員に求めることについて>

- ・自分で、何が良いことで悪いことなのか判断できる力を付けさせる指導を求める。
- ・卒業後は本校の同窓会員であるという意識をもたせる指導を求める。